

（1）第5回羽村市長期総合計画審議会における意見等について

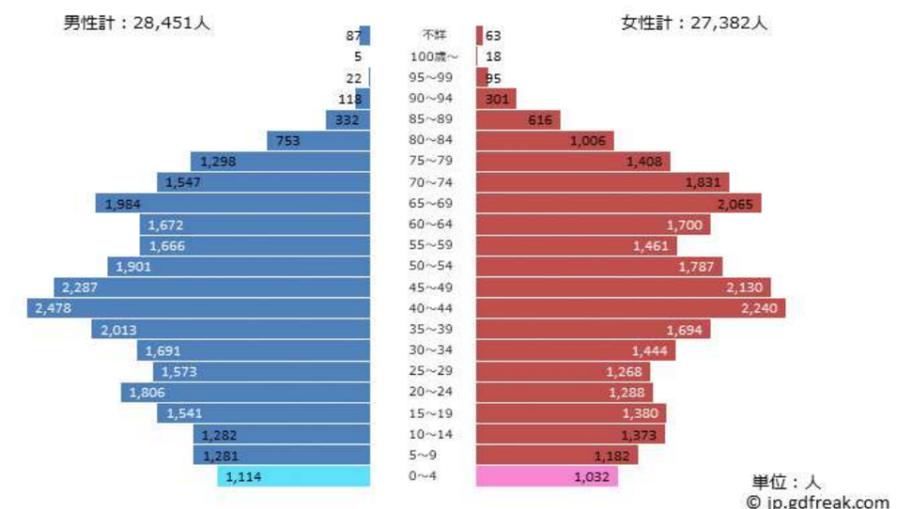
①第4回羽村市長期総合計画審議会における意見等について

No	委員名	項目	No.	意見・感想等
1	田村委員	①市民意見聴取の結果について	1・12	羽村市を活発にするには、町内会・自治会活動が活発にならないと発展しないと思われ、現在加入率が減少していく中で、加入していない人々を活発するように、行政も考える必要があるのではないか。
2	山下委員	①市民意見聴取の結果について	1・12	町内会組織の活性化について既存のシステムを変えることについての木下委員の意見に同感する。従来の行事を毎年踏襲するには、高齢化や共働きによる子育ての負担、近所付き合いの変化など、参加意識が減少して負担に感じている。従来の年間行事を白紙に戻し、地域ごとの独自の企画をたてさせて申請された行事に対して予算補助を行うのはいかがか。すでに町内会ごとにあり方について検討されている地区があると聞いている。地域の自主防災や、避難所運営など災害対策には市民の関心が高いようである。
3	山下委員	②職員プロジェクトチームによる検討の結果について		・デジタル化の推進について、駅、市内町内会館、市のスポーツセンター、コミュニティセンター、保健センター等、市民活用施設の推進、ネットワーク化を進める。 ・行政サービスのデジタル化に向け、市内コンビニ、商工会、観光団体、医師会、金融機関等と連携し、市民が活用できるコンテンツの開発を推進する。
4	山下委員	③基本構想の策定に向けて	4	橋本委員の意見に賛成する。“花と水のまちづくり”で、すでにチューリップ畑があるが、その延長で、流れるプールの跡地に水路や池を作りメダカやはやなどを放流、合わせてバーベキュー施設やミニキャンプ場、釣り場、集いの場などの施設を設けると良いと思う。高齢者から家族までにぎわえる施設を検討いただきたい。
5	佐藤委員	③基本構想の策定に向けて	4	橋本委員の意見に賛同。 ・身近な自然を十分に活かせば、更なる魅力が発見できるのではないか。 ・フィールドアスレチック、ソロキャンプ場など、羽村をPR、定住促進に繋がる分野に投資も検討してみてはどうか。
6	佐藤委員	③基本構想の策定に向けて	5	資金調達方法の研究について ・地方公共債、PFI事業、公募投融資、クラウドファンディング等の活用も研究されていると思うが、調達方法を広げてみてはいかがか。
7	佐藤委員	④その他		シティプロモーションについて 渋沢栄一で街の魅力につなげている深谷に習い、玉川兄弟で大河ドラマ制作に働きかけてみてはどうか。
8	池上委員	①市民意見聴取の結果について	11	羽村市に住んでいてよかった！と感じる市民が中心となり、居心地の良さをアピールする広報に力を入れてほしい。
9	池上委員	④その他	1	ごみの分別は、地球を守る意味でもとても大事なことで、幼少期から、家庭教育、学校教育、地域の中で学びながら身につけていくものと考えている。 どうしても自分で分別が困難な人には支援が必要である。例えば、地域にいる元気な高齢者や小学校高学年、中学生、高校生の有志が「ゴミ分別支援隊」となってサポートできるシステムを作ってほしい。ゴミ分別サポート隊の活動が見守りにつながり、災害発生時にも大きな力になると思われる。
10	伊藤委員	①市民意見聴取の結果について	10	「成功例・失敗例に学ぶという観点で他の自治体を参考にする」という観点はよいと感じた。さらに加えると、そのような他の自治体との競争を意識するだけでなく、協力し合うことで価値ある取組みができれば、なおよいと思う。
11	伊藤委員	①市民意見聴取の結果について	12	これまでとってこなかったような手を打つ必要があるという点では同じ思いである。クラウドファンディングのアイデアも面白いと思う。ただし、町内会は廃止ではなく、盆踊り、体育大会参加、餅つきなどの事業運営をその見直しも含めて「新しいシステム」に譲って、会員の年齢層（＝定年後世代）にとって価値がある事業（例えば、サークル活動など）の運営を中心とした組織に変えていくのがよいと思う。加えて、広報はむらを全戸配布できているので、回覧板は廃止の方向でよいと思っている。
12	伊藤委員	①市民意見聴取の結果について	13	行政サービスにおけるIT活用は、個人的に賛成である。少子高齢化対策の観点で、いわゆる子育て世代の羽村への移住（あるいはUターン）を目論んでいると思うが、その世代は子どもの時にすでにインターネットが世の中にあった世代であり、EコマースなどIT化の恩恵を受けている世代である。したがって、羽村市がITを活用したサービスを幅広く展開できれば、子育て世代にとっては、自分たちの価値観と羽村市の行政の価値観が一致していると感じて、羽村市に好印象を抱いてもらえると思う。
13	伊藤委員	③基本構想の策定に向けて	4	羽村が持つ自然資源活用の観点で大変参考になった。1日プレイパークのような活動とリンクしても面白いかもしれない。そうすれば、プレイパークを運営する大人にとっても気づきがある活動になると感じた。

②羽村市の将来人口推計の結果について

No	委員名	意見・感想等
1	江本委員	・14歳以下の人口減少が継続することから、学校規模の適正化も視野に入れつつ、学校教育のより一層の充実を考えたい。 ・ここ10数年は、高齢者の増加が継続することから、生涯学習の充実（いつでも、どこでも、誰でも学べる）は欠かせない。
2	田村委員	今後人口増はありえない中で、今こそ、長期計画の作成が重要と思う。
3	山下委員	10年後、市内の人口が5万人態勢として。学校、駅、病院、開業医、商店など就労人口の内訳（昼、夜、市内勤務者、市外勤務者）と高齢者の健康管理のための施設利用や支援体制に対応したまちづくりの施策が求められる。
4	橋本委員	出生数は年々減少し、新型コロナが更に拍車をかける。待機児は0（ゼロ）になるかわりに、定員割れが深刻な問題である。幼稚園も保育園も子どもの数に見合う定員変更が必要である。
5	佐藤委員	令和42（2060）年に人口50,000人を維持していくことを展望に掲げている。社人研予測では、令和42年は34,000人と予測されている。他市からの流入も必要だが、出生率の向上が重要な鍵と思われる。沖縄県に並ぶくらいの出生率を目指す目玉政策がほしい。もしくは、多摩地区No.1の出生率など目標があれば、地域一体となる子育て環境をPRできるのでは。妻には嫌がられる男性の身勝手な意見であることは理解している。3人目以降出産の市税の大幅優遇、塾代補助など。
6	佐藤委員	日本全体が人口減少するので、少しでも緩やかな減少に抑えることが必要では。財政難から、他市と合併、吸収等にならないためにも、財政健全化が重要。緊縮財政は、市民への丁寧な説明で、一時的な反発もあるかと思うが、後々理解されると思う。
7	池上委員	人口減少期における少子高齢化が進むことは、羽村市に限らず、他地域でも想定されている。しかし、市独自推計にあるように、2030年まで50,000人台を維持できることを目標に、第五次長期総合計画に実施してきた多くの取組みを土台に、新しいアイデアを加味し、継続して進めていくことが大切だと思う。
8	伊藤委員	市民意見聴取結果について、この結果は今の羽村の年代別人口比（20歳以上のうち、子育て世代（仮に39歳まで）の割合が3割程度）の影響を少なくとも受けているので（加えて言えば、このような調査への協力モチベーションは現役世代よりも定年後世代の方が高いと想像する）、子育て世代の移住・定住を目指すのであれば、市内の子育て世代への調査が必須だと思う。
9	成沢委員	P241～242の転入先と転出先について 転入に比べて転出が多い。特に青梅市とあきる野市。 転出理由、転入理由を知りたい。アンケートなど。
10	平野委員	議事内容の説明3ページに、「2060年に5万人の人口を維持していくことを人口の展望として掲げて～」とある。 ①5万人が目標値である理由 ②その5万人の理想的年齢構成バランス この2点について説明をお願いしたい。

2015年 羽村市の人口構成



③羽村市基本構想の将来像について

No	委員名	意見等
1	江本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然を残し、活かす まち ・市民 共働による活力ある まち ・市民皆が いつでも どこでも 学べる まち
2	田村委員	コロナウイルスにより市民生活に変化が生じてきている中、行政も変化して、市民サービスをお願いしたい。
3	中村委員	<p>「市民が心豊かに穏やかに暮らせるまち」</p> <p>「誰もが取り残されることが無いまち」</p>
4	山下委員	<p>「自然豊かな環境と先人の残した歴史ある文化を生かした街づくり」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 羽村市民全員が街づくりに参加できる仕組みとコミュニティーが求められる。1940年後半の戦後には「伸びゆく羽村」が発刊され、市内の小・中学生に、はむらの歴史や取組みが副読本としてあった。先人が取り組んできたことを市民が知り、これからの羽村市を伸ばすための貴重なヒントがあり、改めて教育の充実をはかる。 2. 地球温暖化に向け、10年を見据えた自然災害への備えが求められる。ハザードマップの毎年の見直しと地震、水害、暴風雨、火事など羽村市の地域別に具体的な取組みが必要。 3. 自然エネルギーの利用に対する準備を宣言し、市内の個人、企業に対して二酸化炭素排出低下に向けた取組みを推進する。（太陽光、家庭用蓄電池、電気自動車の導入促進のための支援策、雨水の活用促進策など） 4. デジタルコンテンツの充実。多摩ケーブルネットワークのチャンネル拡大のため、西多摩地域の行政機関、西多摩新聞、西の風など地域報道機関と連携し、西多摩放送など新チャンネルを設置、ケーブルテレビやスマートフォンでの発信の充実をはかる。 5. 青梅市、福生市、あきる野市、西多摩郡等の隣接市町村と連携し、病院や福祉施設を循環する福祉専用バスの運営団体を設立し、推進する。
5	橋本委員	人口問題は行きつくところ教育問題であると思う。誰一人取り残さない義務教育、画一的でなく、多様な環境の中でその子らしく成長できる義務教育のあり方を模索していくことが大事だと思う。
6	佐藤委員	<p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水」が美味しい、都の取水元 ・「空気」がおいしい、山が近い ・「花」がきれい、チューリップ、桜がたくさん ・「田舎」…自然豊か ・「子育て」安心・安全な街、住みやすい街 ・「動物公園」のある街
7	池上委員	<p><キーワード></p> <p>「豊かな自然」「居心地の良い居場所づくり」「笑顔あふれる」「市民・事業者・行政の連携」</p> <p><具体的なイメージ></p> <p>豊かな自然と共生し、誰もが遠慮なく集える居場所がまちのあちこちにあること、また、子どもから高齢者までお互いを支えあえる仕組みがまちのあちこちにあること</p> <p>これらの積み重ねにより、安心・安全なまちづくりにつながる</p> <p><キャッチフレーズ></p> <p>自然環境、多様性に配慮した 笑顔あふれるまち はむら</p>

No	委員名	意見等
8	山田委員	<p>キャッチフレーズにまとめる上で、「言葉」のみがひとり歩きしてしまうような難しいワードや、最近使われるようになったカタカナ語など、若い人や高齢者など広く一般に伝わりづらいものは避けるべきだと考える。 私はこの点から、前回「笑顔でいっぱいのもち羽村」という提案をさせていただいた。 しかし、今回「羽村市の将来人口推計の結果について」等の資料を拝見し、生産年齢人口、年少人口の増加につながるようなものにしたほうがよいと感じた。転入者アンケートでは、転入する際の情報収集を積極的に行った人はわずか23.0%であることから、一見、一聞でわかるものにすべきと感じた。 ここで、何をすぐにわかるようにするかについては、「子育てしやすいまち羽村」が人口維持につながり、推していくポイントとして最も適していると思う。 高齢者への配慮はもちろんのこと、安心面を羽村市の強みとして強調し、「安心して子育てできるまち羽村」などもイメージとして提案させていただく。</p>
9	伊藤委員	<p>子育てしやすいまち ⇒シティプロモーションで発信しているイメージそのもの</p> <p>市民がつくるまち ⇒木下委員のクラウドファンディングのイメージ。今のボランティアな市民参加に加えて、行政が市民（民間企業ではなく）に出資して、市民感覚でかゆいところに手が届くような事業を提案・運営してもらおう。あるいは、手を動かさないが金銭的に余裕がある市民が、クラウドファンディングで支援する。</p> <p>ふるさと ⇒橋本委員の意見にあるような多摩川周辺の環境活用。加えて、羽村で生まれ育った人が、羽村で家庭を築き、近所に住む親の支援を受けながら子育てをするイメージ。あるいは、市外から移住した人が地域に溶け込めるイメージ。</p> <p>ICTトッパー ⇒ITになじみが深い子育て世代への共感を示す。小学校でのタブレット配布も始まった。また、限られた予算で効率的に事業運営するためにはICT活用は必須。ICTを活用した市民参画（オンライン会議、オンラインチームチャットなど）。年配層へのICT教室のようなものが上手くできれば、買い物の便の問題が解消する。オンライン診察が認可されるようになれば医療の問題も解決。成沢委員が言うように目線を高くという観点で「トッパー」。</p> <p>健康 ⇒医療・福祉サービスへの投資。働く人の心身の健康支援。</p> <p>コンパクトシティ ⇒魅力がぎゅっと詰まったイメージ。市内のどこでも同質の行政サービスを受けることができる（そのためにもICT活用は必須）。コンパクトな中に、自然があり、商業地区があり、住宅地がある。</p>

No	委員名	意見等
10	成沢委員	<p>(1) 自治体活動 実は今年初めて自治体の組長を引き受けた。子供が生まれ、近所付き合いが大事だと思ったので引き受けたが、いざ参加してみると辞める人の多いことに驚いた。 若い世代は共働きが多く、年配の世代は老々介護で皆さん忙しい。回覧板を回すだけでも負担になり、自分のところで回覧板を止めてはいけないと気にしてしまう。これでは辞める人が多くてもしょうがない。 デジタル化して負担を減らしている例がないか調べたところ、ネット上の掲示板と従来の回覧板を併用して努力している例があった。メールやLINE、掲示板なども併用することで、自治体に参加しやすくできるのではないか。</p> <p>(2) 学習・運動 健康寿命を延ばすには知識が必要で、知らない人は年を取ったから仕方ないとあきらめるが、知っていれば意識して定期的に運動するだけで結果はかなり異なる。</p> <p>(3) 目線の高さ もし羽村市が多摩地域の自治体しか見ず、そこに勝ることを考えていると「どんぐりの背比べ」になってしまうだろう。目指すなら日本一、または世界で競い合えるレベルを目指すべき。 高い目標のもとに仕組みづくりを行えば、自然と人が集まるようになる。</p> <p>(4) 職員 よいしょではないが、羽村市役所職員は周辺の自治体職員よりも地域の活性化に真剣な職員が多く見受けられる。他の地域の街おこし系の人と話をしてもそう言われるので、身内びいきではないはず。 職員が羽村市の一番の強みのように思う。</p>
11	木下智実委員	<p>・ポイントとしてあげたいのは、「欲張らず、シンプルなフレーズ」にしたい。 →確かに大切にすべきものはいっぱいあるが、そのすべてを入れてしまうと、結局のところ「あたりさわりのない言葉」になってしまい、人々の心に残らない。響かない。</p> <p>・これまでは「個」の人々の生活や幸せに重点が置かれていたように思う。もちろんこの観点は大事にしたいわけであるが、新型コロナを経て、「つながり」が「個」の生活や幸せをより充実させていたことに改めて気づくこともあったのではないだろうか。</p> <p>そこで 「つながりで幸せを築くまち、はむら」というフレーズを提案したい。</p> <p>アナログ、デジタル、それらを支える行政システムによって、人と人との互恵的なつながりを目指すのは、どうだろうか。 ※アナログ…人が集う場の創造 デジタル…通信環境整備のもと、自己表現の多彩な場</p>

No	委員名	意見等
12	平野委員	<p>『日常に充実を感じ、未来に希望を抱きながら生活ができるまち』 それが私個人が羽村市に期待する将来の姿でもあります。 さらに、その期待の中身の主たる項目をあげるとするならば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子の絆が深く、思い出が多く、育つ暮らし ・個人それぞれの多様性が尊重されるコミュニティー ・公立小中学に魅力的かつ持続可能な個性的学習プログラム、それと響きあう校外学習機会 ・特色と多様性に富んだ学びの場が全年齢対象にある ・「ここで子育てをしたい」と思える ・「ふるさと(羽村)に戻り子育てをしたい」と思える ・「ここなら老後も健康で楽しく暮らせそう」と期待がもてる ・観光名所となる大自然はないが、暮らしのなかの自然を大切にすまち ・羽村で暮らす人々が“若々しい”印象 生き生きしていると言い換えることもできる。 <p>身体の状態が良好であるという意味だけではなく、心に活力がある印象の人々が多くいる状態。 もちろん、心身ともに活力がない状態のときでも居場所を失うことのない地域社会がベースにあることが前提である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な無形の宝が豊富にある <p>「わざわざコレのために何度も羽村を訪れる、または住みたい」というほどの魅力をもつ有形物には乏しいのが羽村市の現実だと個人的には感じている。しかしながら、魅力的な無形の宝はこれからいくらかでも創出できる。 すでに存在それを認識しなおす作業も含めて。羽村市で暮らすという選択の価値観をどう創造していけばよいのか、多くの市民の気持ちからくみ取っていきたい。</p>
13	片山委員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大手企業の他市への移動に対し、移動しないように市としての体制が必要。 2. 人に対しても上記と同じ状況。